

## 2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	比較居住文化小委員会	主 査 名：清水郁郎 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：布野修司 主 査 名：高田光雄
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>グローバリゼーション等、近年の居住文化を取り巻く状況を踏まえ、フィールドワークによる居住文化の研究とその統合を下記の要領で推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に根ざした計画手法の変容に関する比較研究 (各年度)。</li> <li>2. フィールドワークを建築教育に活用するためのマニュアル作成 (2008、2009 年度)。</li> <li>3. フィールドワークを広く応用する方法の検討 (2010、2011 年度)。</li> <li>4. 上記目的に沿ったフォーラム (拡大研究小委員会) の開催 (各年度)。</li> <li>5. 海外の研究者を含む研究者間のネットワークづくり (各年度)。</li> </ol>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>足立崇 (大阪産業大学)・井上えり子 (京都女子大学)・上北恭史 (筑波大学)・内海佐和子 (昭和女子大学)・岡田知子 (西日本工業大学)・角本邦久 (関東職業能力開発大学校)・栗原伸治 (日本大学)・清水郁郎 (芝浦工業大学)・田上健一 (九州大学)・月舘敏栄 (八戸工業大学)・丁志映 (千葉大)・橋本憲一郎 (東京大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィールドワークマニュアル WG 小委員会内にフィールドワークマニュアル作成のための非公式なワーキング・グループを設置した。企画と出版社との折衝、編集補助等を担った。</li> <li>2. 情報発信に関わる WG 小委員会の活動と当該研究成果の国内外の蓄積を公開するための非公式なワーキング・グループを設置した。サイトを立ち上げ、HP を作成、更新するための打ち合わせをおこなった。</li> </ol>	
2009 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (名称) 拡大研究小委員会『非都市居住の課題と可能性』参加者数 10 名 (資料名) なし</li> <li>2. (名称) 拡大研究小委員会『歴史的居住環境の変容』参加者数 7 名 (資料名) なし</li> </ol>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 拡大研究小委員会の開催を通じ、研究事例の整理と集積、研究者相互の交流が達成された。</p> <p>2. フィールドワーク・マニュアル刊行に向けて、具体的な作業（原稿執筆、編集）をすすめることができた。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 小委員会の活動をアピールするための研究蓄積を WEB 上で公にするための準備をはじめた。しかし、サーバーの設置やドメイン取得の面で手間がかかるので、学会本体でこうした作業を効率的におこなえるような窓口やマニュアルを作成してほしい。また、計画系本委員会のページも現行の体制に訂正してほしい。</p> <p>2. マニュアル刊行に際して、初校の集まりが遅く、当初予定の日程に若干の遅れが出てしまった。</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。